

平成18年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム

進化する教養教育と国際化新人材の育成

基礎力活用による中国語コミュニケーション能力育成展開プラン“游(yóu)”

1) 取組の背景

基本状況

- ・グローバル化の進む国際社会 中国語、中国語人材の需要増大
- ・英中両言語を使える人材 世界、アジアに多いが、日本には少ない

短期間に初中級を学ぶ教養中国語教育の現状と課題

- ・音声教育が重要な中国語の特徴と授業時間数の制約
- ・達成感のないまま、単位習得以上の学習意義、目的意識を育成しにくい
- ・大量の学生が学びながら中国語を運用できる人材が育成されていない

大学教養課程における中国語教育の改善

- ・基礎教育で、短期間に、確実に、質の高い音声教育を行い、単語力を増強し、平易な表現で対話できる基礎力活用型中国語人材を育成し、社会と学生のニーズに応える

自習支援型 e - Learning システムの開発と人と社会への関心を育む教育の連係

→ 技能の習得と人格の涵養を図る

2) “游(yóu)” とは・・・

- ・中国語のコミュニケーション世界で、学習者が自由に遊び、学ぶ意味
- ・中国語読み のローマ字表記“you”は英語の「あなた」、学ぶ主体である学生を象徴
- ・教育構想の名称、開発するシステムの統括的名称

技能と人格の涵養を図る教育プラン

内容：コミュニケーションできる語学的技能の習得

運用する人間としての内的涵養

構成：汎用性の高い自習支援型 e - Learning システムの複合利用

オーラルインタビュー方式による独自の対面式正課授業

*オーラルインタビュー方式(口述史の方法論の援用)

- ・反射神経と速度を要請する日常会話能力とは異なる口語教育の実践
- ・コミュニケーションの為の語学的技能と人と社会に対する理解力、知的関心の養成

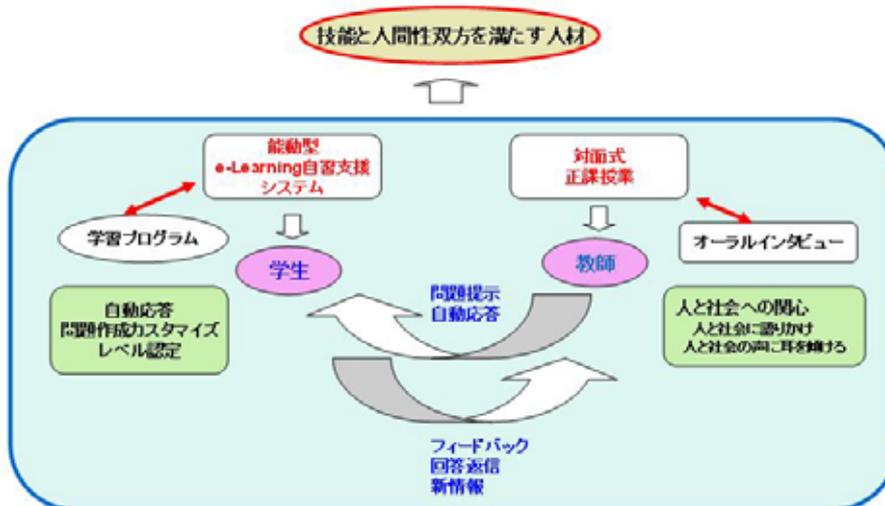
特色：学習者の個別状況(意欲、関心、レベル)への呼応

エンドユーザ能動型学習機能

学習者による学習情報の発信

学び手と教え手を創造主体とする教育の実現

基本構造



3) システム“游(yóu)”の特徴 学ぶ主体の為のツール

自習支援システムの問題点

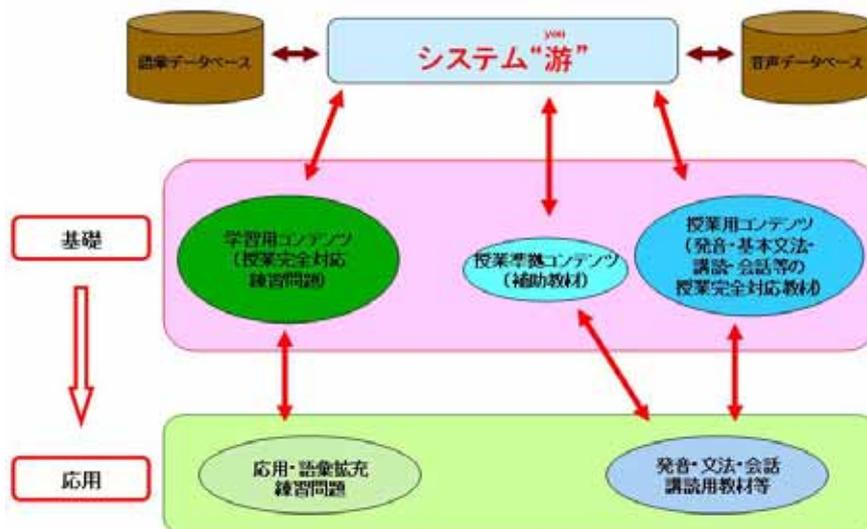
いつでも・どこでも使えるが、必ずしも十分に使われない
補助学習の必要な学習者が、活用するとも限らない

—————> エンドユーザ能動型システム

システムの特徴

- ・見てわかる！ 自分で直せる発音！ - 声調波形
- ・家庭教師役の“游”が提示する指導と学習情報 - 自動応答機能
- ・自分でセレクト、指定できる学習プログラム—エンドユーザ能動型学習機能
- ・豊富で、多彩な学習素材 - レベルと興味で選べる多様な素材
- ・学ぶ主体からの情報発信 - 学ぶ側と教える側の連係

システム游(yóu)の概要



4) 教育課程 (e-Learning コース)

- ・一般教養課程 卒業必修科目としてのコースは設定しない
- ・基礎教育と選択科目を対象に、基礎力の習得、活用、展開の三段階により実施
- ・エンドユーザ能動型 e-Learning 自習支援システム
外国語習得の為の四技能《読む・書く・聞く・話す》に呼応
- ・義務 (授業用予習と復習) と自主利用の二種類の併用



5) 取組に期待される効果と意義

- ・中国語人材教育
他のアジア諸国との協調が求められる日本の国際化に有益かつ重要
国際社会における人的交流の深化、発展に大きな効果
- ・教養教育の改善と基礎力活用型人材育成
21世紀の国際社会に有用な国際化新人材を育成し、教養語学教育の
新たな可能性を切り開く、新時代の中国語教育の実践
- ・汎用性の高い能動型 e-Learning 自習支援システムの可能性
教師、学生ともに気づかなかった双方の潜在的な要求、発想などの発見
により教える側、学ぶ側がともに教育創造の主体となる
- ・声調波形表示機能
タイ語、ビルマ語など、他の声調言語にも転用可能